

歴史探訪

クラブ

其の185

History Inquiry Club



文化財課 ☎22-1720
(博物館) FAX 22-2028

謎の名工「藤原正真」

最近では、某オンラインゲームの影響で日本刀ブームになっており、「刀剣女子」という言葉に象徴される、新しい日本刀愛好者の層が出現してきています。もともと、日本には刀を武器としてだけでなく、美術品として愛好する独特な文化があります。また、この文化とは別文脈で前述のゲームでは、有名な刀剣をキャラクター化することで、刀を一種のアイドルとして愛玩するという

現象も起きています。キャラクター化され「刀剣女子」の人気を集めている槍の一つに「蜻蛉切」という槍があります。

この「蜻蛉切」という槍は田原に住んでいた刀鍛冶、藤原正真が作ったといわれる作品で、江戸時代の終わりごろまでには「天下三名槍」の一つに挙げられています。この槍がなぜこれほどまでに有名になったかという点、徳川家一の豪傑といわれた本多忠勝がこの槍を携えて、一言坂の戦いや長篠の戦い、小牧長久手の戦いで活躍したことが、徳川家の創業史である「改正三河後風土記」をはじめ、さまざまな書物の中に記述され残っているからです。

しかし、本多忠勝の活躍から離れて、田原の刀鍛冶である藤原正真自

身について調べてみると、驚くほどよく分かりません。実際本当に「蜻蛉切」を田原の藤原正真が作ったのかさえ確認できませんでした。彼のルーツについて記述した、不確かな裏付けの取れない資料はいくつかあるのですが、それでさえ記述に大きな差異があるのです。現状では、①

奈良の金房派の正真という刀鍛冶が田原へ移住してきた。②伊勢にいた村正一派の正真という刀鍛冶が田原へ移住してきた。③奈良から田原へ移住してきた包吉という刀鍛冶が田原で育てた弟子が正真。以上の3つの異なる記述を見ることができません。

①と②に現れる金房派の正真と村正の弟子の正真の刀は多く現存し、その特徴を見ることが出来ます。①と②の刀はそれぞれ全く異なる特徴



●田原町内に残る正真の墓

(山本)

を持っていきます。よって、確実に田原にいた正真が作ったといえる刀あるいは槍が出てくれば、①②の作例と比較し、どちらと共通性があるか見ることで、田原の正真がどういったルーツを持つ刀鍛冶であったかを推測することが出来ます。

しかし、現在では、田原の正真が作ったといえる槍や刀を全く見ることができません。田原に住んでいた名工の実像は謎に包まれているのです。「刀剣女子」の皆さんも謎に挑戦してみませんか。もしかしたら謎の解明につながる刀が皆さんの家に眠っているかもしれません。情報があれば博物館まで。